

親子コミュニケーションを育むためのシルクスクリーンキット

Silk screen kit to foster parent-child communication

佐藤一毅

指導教員 李盛姫

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 ビジュアルコミュニケーション研究室

キーワード：シルクスクリーン，親子コミュニケーション，未就学児，制作キット

1. 研究目的

近年、小学生の心理問題が多様化してきている。いじめや抑、や不登校などが目立ってきており、いじめは平成 18 年の 60,897 件と比べて平成 29 年には約 5.2 倍の 317,121 件、不登校は 23,825 件と比べて約 1.5 倍の 35,032 件に増加している。本研究では小学生の心理問題を学外の視点から調査し、改善することを目的とする。

2. 調査内容

2.1 学校での対策

現在学校で行われている対策は大きく 2 つあり、1 つがソーシャルスキルトレーニングである。社会で生きる上でのコミュニケーション練習や生活スキルを学ぶ。もう 1 つがサクセスフルセルフで社会の中で自分らしく生きる基礎力を養うものである。

2.2 家庭内での対策

学校内の取り組みだけに留まらず家庭内出の対策が重要となり、特に今後の人生での対人コミュニケーションの土台となる未就学児のうちに対策をとっておくことで小学生の時の心理問題の改善に繋がることわかつていく。

2.3 事例調査

森永製菓株式会社が約 500 人を対象に親子コミュニケーションについて調査しておりその結果、親子で一緒にホットケーキを作る・食べるという共同作業は親と子それぞれの心理的成長を育むことが明らかになっている。

これらの調査から小学生の心理問題を改善するには早めの対策をとる必要性があるため本研究で

は未就学児とその親をターゲットとする。

3. コンセプトおよびアイデア展開

本研究は森永製菓の「親子のホットケーキ作り」をベースとし、親子のホットケーキ作りの各工程で得られる心理効果を分析しシルクスクリーン制作にステップごと置き換えホットケーキ作り以上の新たな効果を引き出す。

ホットケーキ作り	期待できる心理的成長	シルクスクリーンの作業工程
道具や材料を揃える：1	想像力/積極性	1：デザインを決める
牛乳の量を測る：2	判断力	2：インク、洋服の色を選ぶ
材料を混ぜ生地を作る：3	分析力	3：デザインを郵送する
生地を流し焼く：4	集中力/積極性	4：版をセットし枠を組み立てる
片面の焼き上がり待つ：5	集中力/積極性	5：版を版にセットする
様子を伺いひっくり返す：6	自覚心/判断力	6：インクを慎重にのせ刷る
もう片面の焼き上がり待つ：7	自覚心/好奇心	7：枠を外し版を洗う
親子で食べる：8	コミュニケーション/自覚	8：服を着る

図1 ホットケーキ作りとシルクスクリーン工程の比較

図1のようにホットケーキ作りとシルクスクリーンの工程で期待できる心理効果は共通していることがわかる。またホットケーキ作りは作業に子供独自のオリジナリティが生まれづらいのに対しシルクスクリーンには子供自ら選ぶ作業が多くオリジナリティが生まれやすいというメリットがある。しかし、現在親子でできるシルクスクリーンはワークショップ形式が主流となっており、対して現在販売されている自宅でできるシルクスクリーンキットはターゲットを広く定めている。以上の調査から本研究のコンセプトを「自宅で手軽にできる親子向けのシルクスクリーンキット」とする。

4. 制作物

子供を主体としたキットとし作業の中で親が子供のサポートを行うことで親子のコミュニケーションが生まれることを狙ったキットとする。シル

クスクリーンによって作れるものは年少、年中はお誕生日会などのイベントごとに着るTシャツやハンカチ、年長は小学校で使用するランチョンマットや体操着袋、サブバックが作れるキットとする。主に玩具売り場や本での取り扱いを想定する。パッケージ含め段ボール素材のキットとし、購入後枠組みや道具を、段ボールを切ったり貼り合わせたりするなどして完成させる。内容物にデザインを描く用紙を同梱させデザインと購入希望商品を記入し郵送、後日版を組み立て、作業を行う流れとする。

5. 検証

今回は年中（5歳）の従兄弟の男児とその両親の協力を得て検証を行った。

5.1 ホットケーキ作り

- 手順：図1の8ステップに準ずる
- 所要時間：調理と食事を合わせて40分程度
- 検証結果：シルクスクリーンとの比較対象とするためホットケーキ作りを行ったが調理工程上、火を使う場面が多いので親が作り子供が所々手伝うという関係性が出来上がってしまった。子供の集中力は調理と食事どちらも15分前後しか続かないことがわかった。

5.2 シルクスクリーン制作

- 手順：図1の8ステップに準ずる
- 所要時間：デザイン決め 30分
シルクスクリーン 3時間



図2ホットケーキ作り（左）とシルクスクリーン制作（右）の様子

- 検証結果：今回は新馬場にあるシルクスクリーンスタジオ「SURUTOCO」にて、シルクスクリーンキット「SURIMACCA」と「SURIMACCAインク」を使用しトートバック1つ、ポーチ2つ、ハンカチ1枚、Tシャツ3枚を制作し検証を行った。作業時間の都合上ステップ1のデザインを決める作業を事前に行っている。基本的に全て子供が主体と

なった作業になったが、デザインの手順では子供のシルクスクリーンの工程上単色のデザインに限定されてしまった。



図3シルクスクリーンの制作物（ハンカチ、トートバッグ）

6. 今後の展望

未就学児の集中力が今後の問題になることがわかった。今回はデザインを考える工程と刷る作業を分けたため子供の集中力を持続させることができた。このインターバルを今後も有効に使っていく必要がある。また単色のみのプリントもマールインクを採用し、展開していくことも視野に入れる。さらに具体的なキットの内容やスムーズな製版作業を行うワークフローを追及していく。

参考文献

- ・平成29年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について/文部科学省（閲覧日：平成30年5月17日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/10/_icsFiles/afieldfile/2018/10/25/1410392_1.pdf
- ・心理教育”サクセスフル・セルフ”を活用した小学校低学年の親子コミュニケーション支援の試み/岡崎由美子 安藤美代子（閲覧日：平成26年5月27日）
http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/52289/201605281140587270/cted_004_056_062.pdf
- ・親子一緒のホットケーキを作りは相乗効果で親子の心理的成長に期待！ /森永製菓株式会社（閲覧日：平成30年6月3日）
<https://www.morinaga.co.jp/public/newsreleaseweb/fix/file5b6b9f0c31726.pdf>